

原本『古画備考』のネットワーク

古画備考研究会編

▶ A5判・500頁／定価9,660円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1674-1

2013年3月刊行予定



狩野友信筆「朝岡興禎像」
 (『太田謹増訂古画備考』所載)

『古画備考』…狩野派の幕府お抱え絵師、狩野栄信の次男、朝岡興禎(1800~56)により、江戸末期編纂された原本『古画備考』は、聖徳太子の時代から江戸末期までの日本の絵画に関する情報を48巻53冊にまとめた大部な書物で、前近代に成立したあらゆる画題、画派、画人を網羅する。近代以降、多くの写本が作られ、現在、活字本の『増訂 古画備考』は日本美術史の基本図書とされている。

本書は、東京藝術大学附属図書館に所蔵される朝岡興禎自筆の原本『古画備考』を中心に、古画備考研究会が取り組んできた共同研究の成果。

活字本の陰に隠れ今まで知られなかった原本を徹底的に解剖することにより、江戸時代後期に『古画備考』を(書画情報)総合集積の場として、大規模に繰り広げられていた古画研究ネットワークの実態を浮かび上がらせる。また、太田謹の『増訂 古画備考』(活字本)や大量に残る写本諸本から『古画備考』の受容の様相を検討し、近代の美術史学に果たした役割を多くの新知見を盛り込んで明らかにする。江戸後期の知識人による知のネットワークが幕末から近代にかけての日本の歴史に寄与した一端を解明する17論文・3コラムで構成した総合的論文集。



原本『古画備考』巻三五「光悦流」部分

◎予定内容目次◎

総論:『古画備考』に見る朝岡興禎の日本絵画観 玉蟲敏子
 —狩野伊川院・晴川院合作「和漢流書画巻」との比較から—

I 各巻からの報告

『本朝画史』と『古画備考』の関係 五十嵐風一
 『古画備考』巻二〇上「雪舟」について 畑 靖紀
 長谷川左近伝を読む 野口 剛
 荒木千洲旧蔵『崎陽名画録稿』と『古画備考』 成澤勝嗣
 南画史の視点で見た『古画備考』 星野 鈴
 —巻二六、二七を中心に—

【コラム】番町朝岡邸の乙女椿 玉蟲敏子
 田能村竹田の「自娛」と「拙」 黒田泰三
 『古画備考』における谷文晁の書画情報 鶴岡明美
 『古画備考』所載土佐家伝についての覚書 相澤正彦
 『古画備考』が伝える長隆写生図 加藤弘子
 『古画備考』巻三五「光悦流」の問題 玉蟲敏子
 【コラム】狩野晴川院が描いた弟三太郎の後姿 松原 茂
 狩野宗秀「遺言状」をめぐる考察 並木誠士
 英流の書画情報 井田太郎
 池上本門寺所在の狩野家墓碑と『古画備考』 安藤昌就

II 『古画備考』と近代

【コラム】『古画備考』の諸本 玉蟲敏子
 フェノロサの浮世絵観と『古画備考』 鶴岡明美
 藤岡作太郎と『古画備考』 村角紀子
 昭和の『古画備考』—田中一松資料について— 江村知子

◎執筆者一覧◎

玉蟲敏子 (たまむし・さとこ) 武蔵野美術大学造形学部教授
 五十嵐風一 (いがらし・こういち) 兵庫県立歴史博物館学芸員
 畑 靖紀 (はた・やすのり) 九州国立博物館主任研究員
 野口 剛 (のぐち・たけし) 根津美術館学芸主任
 成澤勝嗣 (なるさわ・かつし) 早稲田大学文学学術院准教授
 星野 鈴 (ほしの・すず) 出光美術館学芸部長
 黒田泰三 (くろだ・たいぞう) 武蔵野美術大学非常勤講師
 鶴岡明美 (つるおか・あけみ) 成城大学文芸学部芸術学科教授
 相澤正彦 (あいざわ・まさひこ) 東京藝術大学教育研究助手
 加藤弘子 (かとう・ひろこ) 根津美術館学芸部長
 松原 茂 (まつばら・しげる) 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
 並木誠士 (なみき せいし) 近畿大学文芸学部准教授
 井田太郎 (いた・たろう) 日蓮宗大本山池上本門寺霊寶殿担当主事
 安藤昌就 (あんどう・まさなり) 元島根県立美術館学芸員
 村角紀子 (むらかど・のりこ) 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター主任研究員
 江村知子 (えむら・ともこ)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
 http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	原本『古画備考』のネットワーク		本体9,200円(税別)	ISBN978-4-7842-1674-1
お名前	tel			書店番線印	
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

宗達伊勢物語図色紙

伊勢物語絵研究会編

2013年3月刊行予定

17世紀前半に伊屋宗達とその工房で制作された「伊勢物語図色紙」はいわゆる「琳派」が繰り返し描いた伊勢物語絵の(始発)である。近年新たに発見された色紙も含めて、59面オールカラーの原寸大で掲載。伊勢物語研究者と日本美術史研究者との合同研究に基づき「宗達伊勢物語図色紙」の全体像と特徴をより明らかにした一書。

▶B4判変型・220頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1676-5

室町水墨画と五山文学

城市真理子著

室町時代中期の画僧で、周文の弟子である「岳翁」と東福寺僧了庵桂悟の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫ることを試みる。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様のお水画について考察。

▶A5判・336頁/定価6,300円

ISBN978-4-7842-1607-9

隔莫記 全7巻(本篇6巻・総索引1巻)

本文：赤松俊秀校訂/索引：『隔莫記』研究会編

近世文化揺籃期の社会相を知る最重要史料、金閣鹿苑寺住持鳳林承章の日記を活字化。その記事内容はきわめて豊富で、17世紀中ごろの文芸や芸術・芸能において必読の一般記録。鳳林承章の交際範囲は、公家社会から法界、また武家や町人に至るまで幅広く、その記述は後水尾院の宮廷文化、茶人、陶工、いけばな、絵師、儒者など多岐。

▶A5判・総5130頁/定価73,500円

ISBN4-7842-1311-2

風俗絵画の文化学II 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「私たち」—を明らかにしていく。美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かしてアプローチした学際的文化的研究の15篇。

▶A5判・450頁/定価7,350円

ISBN978-4-7842-1615-4

海を渡り世紀を超えた竹内栖鳳とその弟子たち

田中白佐夫・田中修二著

栖鳳滞欧期の足跡をたどり、その後の作品との関連にもふれつつ栖鳳の“西欧文化体験”を扱う。第2章では取材を通して“栖鳳山脈”の作家たちをとりあげる。1903年の「第五回内国勲業博覧会(大阪)」に出品され、その後行方不明となっていた栖鳳の屏風「羅馬之図」が100年ぶりに発見されたのをうけ、本作品をカラー写真により紹介。

▶A5判・220頁/定価3,200円

ISBN4-7842-1106-3

岡倉天心の比較文化史的研究

清水恵美子著

ボストンでの活動と芸術思想

明治時代に美術分野で活躍した思想家、岡倉覚三(天心、1863~1913)の、特にそのボストンでの活動に焦点をあてて考察。著者がアメリカで行った文献資料調査により、発見した新出資料などを駆使し、同時代の文化的状況、美術、演劇、音楽の動向など複眼的な視座からのアプローチを通して、より立体的な解釈を試みる。

▶A5判・548頁/定価11,235円

ISBN978-4-7842-1605-5

フェノロサ社会論集

山口静一編

当時の活字媒体を通じて発表された講義資料、宗教論を含む社会論のすべてを収める。【内容】東京大学における政治学・理財学・哲学講義/宗教ノ原因及ビ沿革論/政治学講義/世態開進論/学位授与式祝辞/靈性ノ三要素/中国および日本の特徴/詩集『東と西』序文/東西文明の比較一斑/内地雑居に関して日本の教育の将来を論ずほか

▶A5判・330頁/定価8,190円

ISBN4-7842-1028-8

近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち

近代実業家は明治から昭和初期にかけて互いに争う一方で、数寄者として茶会において何度も同席し、財閥の枠を超えた交流が繰り返されてきた。本書は、近代実業家と茶の湯に関わるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。

▶A5判・308頁/定価4,200円

ISBN978-4-7842-1603-1

黄金のとき 桃山絵画

京都国立博物館編

信長・秀吉と狩野永徳に象徴される桃山時代の絵画を狩野派とそれをめぐる作家たちの作品を中心に構成。大画面(襖・屏風・大絵馬・杉戸絵)を主として基本作品全100点を全8章に分けてオールカラーで収録。各章ごとにテーマ解説を掲げ、適宜部分拡大図を収録。巻頭概説「祭の終り—桃山時代絵画の展望」のほか巻末に作品解説を収録。

▶B4判・400頁/定価42,000円

ISBN4-7842-1044-X

田能村竹田基本画譜 全2冊(図版篇・解説篇)

宗像健一編著

田能村竹田(安永6年~天保6年)は資性文雅を好み高才多能、詩歌・書画・茶などに通暁。池大雅、与謝蕪村のあと、青木木米・頼山陽・らとわが国南面の隆盛期を築いた。図版篇には140点(カラー95点・モノクロ45点)の作品を大型図版で収録。解説篇には総論と基本作品の詳細を極めた個別解説のほか、題詩・落款・印譜・年譜などを収録。

▶B4判変型・総398頁/定価29,400円

ISBN978-4-7842-1566-9

隔莫記 総索引

『隔莫記』研究会編

『隔莫記』全6巻の膨大な情報を整理して刊行。人名(8000)・事項(8800)・社寺名(550)・地名(500)の4分類に分けて編集。人名索引では、別称・異称・官位官職・寺院名・姻戚・師弟関係・居住地などや鳳林・校注者の誤りなどを併記し、事項索引には、陶磁器・園芸・建築・書画などの諸分野の項目を収録。

▶A5判・760頁/定価14,700円

ISBN4-7842-1312-0

京都画壇の一九世紀 第2巻 文化・文政期

佐々木丞平編

わが国絵画史上において、19世紀は、古い伝統が解体し新しい画壇が誕生する過渡期であり、今日の画壇研究における最も重要な時期といっても過言ではない。本書はこの19世紀の京都画壇を中心に、その前後の日本画壇の動向を捉えようとするものである。大型判で作品142点をカラーで掲載。

▶A4判・220頁/定価25,486円

ISBN4-7842-0838-0

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

水木要太郎(1865~1938)は、奈良女子高等師範学校教授や奈良帝室博物館書芸委員を歴任。その多様な収集品や広範な交遊は「文化人」としての幅広い活動を物語る。近代奈良において個人により形成された、多分野に及ぶ資料群の形成過程や収集意図のもつ歴史的意義の解明を目的とした国立歴史民俗博物館の学際的な共同研究の成果。

▶A5判・508頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

近代日本における書への眼差し

高橋利郎著

日本書道史形成の軌跡

毛筆で書かれた肉筆の文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版や宝物調査、展覧会の列品、文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。近代教養者が私的に書跡を鑑賞する場について考察し、彼らを取り巻く文化環境を総合的に理解し、書跡への眼差し影響の大きさを論じる。

▶A5判・304頁/定価5,040円

ISBN978-4-7842-1595-9

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。【目次】近代茶道の三つの転換期/伝統文化の解釈者たち/茶道への理論的アプローチ

▶A5判・454頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

茶会記をひもとく 逸翁と茶会

逸翁美術館編

2012年に開催された逸翁美術館特別展覧会の展示図録。小林一三は、三井銀行を退社し、箕面有馬電気鉄道(阪急電鉄)を起業した40代前半頃、茶道の師となる表千家の生形貴一宗匠と出会い、茶人としての道を歩み始める。茶の湯との出会いや、近代教養者としての歩みを、残された茶会記をひもときながらオールカラーで明らかにしていく。

▶A4判・92頁/定価1,050円

ISBN978-4-7842-1626-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。